

# 二〇一九年度 入学試験問題

## 適性検査型入試（第二回）

### 適性検査Ⅰ

#### ★注意事項★

1. この問題は、3ページあります。「はじめ」の合図があるまでは開かないこと。
2. 解答用紙の中にはさんであります。受験番号・氏名を必ず記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 印刷が不鮮明だったり、ページがぬけ落ちたりしているときは、すぐに申し出ること。
5. 「やめ」の合図があったら鉛筆を置き、先生の指示にしたがうこと。

1 次の文章A・Bを読んで、あとの問いに答えなさい。

## 文章A

本を読むといろいろな人と出会えるし、世のなかを広く知る手がかりをつかめるし、また実生活では起こり得ないことでさえ、<sup>A</sup>存分に体験できます。高校生までの間に、そうした体験の幅を広げておくことは、社会人になり、厳しい社会を生き抜いていく上で大きな力になります。

もちろん、ネットの世界でもこういった疑似体験はできるでしょう。むしろ動画や画像がある分、追体験しやすいかもしれません。でもその空間はあまりにも雑然としており、なにかもがあまりにもはやく消化されていってしまう。一対一でじっくりと向き合い、人生というものを考える点においては、やっぱり本のほうに分があるようです。

紙の本という文化に深くふればふれるほど、子どもは知識や言葉、体験といったものを驚くほどの貪欲さで吸収していきます。

いま、わたしの机の上に読み終えたばかりの『文明としての江戸システム』（講談社学術文庫）という本があります。

小さな本なのに、江戸時代の人口、農村や都市の暮らしぶり、自然のたたずまい、産業の様子、生活の趣など、江戸の概観がわかるように書かれてあります。

巻末には168点の「参考文献」が掲載されていますが、著者の鬼頭宏氏はこの1冊を書き著すのに、これほど膨大な国内外の書物を読みこなして、江戸時代のことを語ろうとしているのです。

339頁の本文には、約270年間にわたる江戸時代ばかりでなく、その前後における日本と外国の時代感が凝縮されています。本には、こうした総合的な知の体系が\*つまっているのです。情報がただ雑然とならんでいるだけの①ネットのまとめサイトなどにはない強みで

しょう。

さらに大事なことだと思われるのは、紙の本というものは、企画、編集、制作、校正、製本、印刷、販売というそれぞれの段階で多くの人がびとがかかわっているという点です。長い年月をかけ、たくさんの人の目が入り、その集大成として1冊の本が仕上がりに、読者のもとに届けられるのです。大げさに言えば、わたしたちの読書行為とは、著者のみならず、そうした本にかかわるすべての人びととの対話でもあるのです。ここがネットの情報と大きく異なる点です。

（肥田美代子「本」と生きる）  
\*（注）概観＝物事の大体のありさま。

## 文章B

いまや図書館よりも先にインターネットで調べる人が大半かもしれませんね。最初に調べたいことの概要を把握するにはじつに便利な手段です。

近年は実名による情報発信も増え、情報に対する責任の所在が明らかかなケースが多くなりました。フェイスブックやツイッター、LINEのような人と人をつなぐSNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）を通じて、多様な情報を短時間で収集できるのもインターネットの魅力でしょう。

ただインターネットを利用する際に注意しておかねばならないのは、その情報が正しいかどうかかわからないということです。ここは新聞や雑誌、単行本など紙のメディアのほうがインターネットよりも圧倒的に強いところです。

新聞や雑誌の記事は、最初に取材した記者が情報を入手してから、

活字になってみなさんの目にふれるまで複数の人たちが内容や文章を  
確認<sup>かくにん</sup>します。校正や校閲<sup>こうえつ</sup>といって文章の誤りや適否<sup>てきひ</sup>を確認する専門家  
も目を通し、誤りや疑問点があれば執筆<sup>しつじつ</sup>者に戻<sup>もど</sup>ります。書いた本人だ  
けでなく、ほかの記者や編集者が真偽<sup>しんぎ</sup>を確かめることもあり、これを  
「ウラをとる」といいます。

新聞や雑誌よりはるかに長く読まれる単行本となるとさらに慎重<sup>しんちゆう</sup>  
で、この確認手続きを何回も繰り返します。本の内容や印刷の具合に  
よっては、執筆に要した期間より確認する期間のほうが長い場合もあ  
ります。辞書や事典、教科書などはその究極の本でしょう。それでも  
出版されてから誤りを指摘<sup>しつてき</sup>されることがあるのですから、何度確認し  
ても確認しすぎることはないのです。

このようなプロセスを経てつくられた新聞記事や単行本がデジタル  
化されてインターネットに掲載されている場合は問題ありませんが、  
インターネット発の情報のお多くはまだそのレベルの確認過程を経てい  
ません。

\*<sup>くつめい</sup> 匿名の人を含む複数のボランティアが書き込むことができる無料の  
辞書、ウィキペディアにも誤りはたくさんあります。読んで誤りに気  
づいた人が修正・削除<sup>さくじょ</sup>するのは容易ですが、それはすなわち、情報の  
質にさまざまなレベルがあるということです。

インターネットの情報の質を確かめるには発信元が一つの B 目安に  
なります。発信元とは、その情報を発信している人や機関のことをい  
います。

掲載までに複数の人によって確認される新聞社や出版社のニュース  
サイト、省庁<sup>しょうちゆう</sup>や図書館、博物館、企業、大学、研究機関などの公式ホー  
ムページは信頼性が高いでしょう。

(中略)

専門家の個人サイトもテーマによってはとても参考になります。た  
だし、質は多様で、かたよった考え方が書かれている場合もあるため  
注意が必要です。今は SNS を利用する専門家も多く、意見やアドバ  
イスを直接もらうことも可能になりましたが、<sup>②</sup> その場合も同様です。

(最相葉月「調べてみよう、書いてみよう」)

\* (注) 概要＝大体の内容。

SNS＝インターネット上でコミュニケーションの場  
を提供<sup>ていきやう</sup>するサービス。

プロセス＝過程。

匿名＝本名をかくすこと。

(問一) 線部 A 「存分に」、線部 B 「目安」のここでの意味  
をそれぞれ次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

A ア 理解するまで      イ 記憶<sup>きおく</sup>するまで

ウ 満足するまで      エ 信用するまで

B ア 方法      イ 目標      ウ 理由      エ 基準

(問二) 線部①「ネットのまとめサイトなどにはない強み」とあ  
りますが、筆者が本の「強み」として挙げているのはどのよう  
なことですか。次の文の [ ] に当てはまる言葉を、文章 A  
中から十五字で書きぬきなさい。

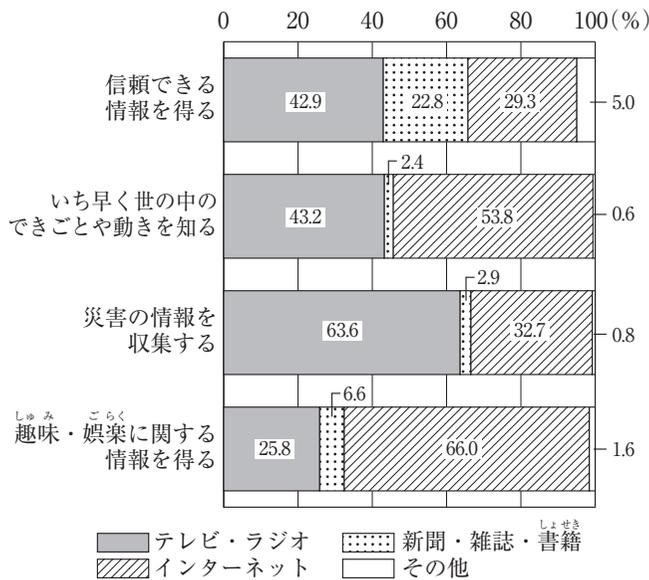
・ [ ] ということ。

(問三) 線部②「その場合」とありますが、どのような場合です  
か。次の文の [ ] に当てはまる言葉を、文章 B 中の言葉を  
使って、二十字以上、三十字以内で書きなさい。

・ [ ] 場合。

問題は次のページに続きます。

資料 目的別の最も利用するメディア



平成 28 年度「IoT 時代における新たな ICT への各国ユーザーの意識の分析等に関する調査研究」(総務省) より

(問四) 本がつくられるまでに複数の人がかかわることについて、文

章 A・B の筆者はそれぞれのように考えていますか。文章 A・B 中の言葉を使って、五十文字以上、六十文字以内で書きなさい。

(問五) ある小学校のクラスで、先生が児童に次の資料を見せました。文章 A・B と、この資料を関連させて考えた児童の意見として、最も適切なものはどれですか。あとの A・B から一つ選び、記号で答えなさい。

A 実際に体験している人が発信している情報には誤りがないため、「趣味・娯楽に関する情報を得る」とときにはインターネットが最も利用されるのだと思う。

イ インターネットの情報は雑然としていてじっくり確認できないため、「信頼できる情報を得る」とときには新聞・雑誌・書籍よりも利用されないのだろう。

ウ インターネットは多様な情報を短時間で収集することができるため、「いち早く世の中のできごとや動きを知る」とときには最も利用されるのだろう。

エ 常に最新の情報を得て全体の様子をとらえることが重要なため、「災害の情報を収集する」とときにはインターネットが最も利用されるのだと思う。

(問六) 「インターネットで情報を収集すること」について、あなたはどのように考えますか。自分自身の体験にふれつつ、文章 A・B のいずれか、または両方に述べられている筆者の考えに関連づけて書きなさい。なお、作文にあたっては、次の条件にしたがって書くこと。

- 三段落構成とし、「はじめ・なか・おわり」を意識して書くこと。
- 題名、氏名は書かずに、一行目から書き始めること。
- 三百六十文字以上、四百文字以内で書くこと。
- 原稿用紙の正しい使い方を書き、書き出しは一ます空けること。